

他の専門部会への提案

ふるさと定着回帰部会への提案

No.	提案元部会	提案の概要	提案に関連する県の取組状況	関係部局
1	産業振興部会	Aターン就職の促進に当たり、県外から仕事を辞めて戻ってきた際の情報提供の機会として、産・学・官・金の連携による県内就職に関するプラットフォームを構築してはどうか。	Aターン就職希望者に対しては、東京事務所内のAターンプラザにおいて、Aターン就職相談・支援を実施するとともに、県内企業とのマッチング機会を提供するため、Aターンフェアを年6回開催している。さらに、今年度から「あきた就職ナビ」を開設し、システム内で県内企業やAターン求人の情報提供、就職マッチング支援を実施している。 若者の県内就職支援に関しては、早期離職者への対応を含め、秋田労働局や商工団体、県内大学・短大、県庁関係課（移住・定住促進課、雇用労働政策課、教育庁関係課）などが一堂に会する会議において、支援策等の情報共有を図っている。	あきた未来創造部

産業振興部会への提案

No.	提案元部会	提案の概要	提案に関連する県の取組状況	関係部局
2	人・もの交流拡大部会	訪日外国人観光客をはじめ、国内においても、クレジットカードやQRコード等のキャッシュレス決済へのニーズが高まっており、今年10月の消費税率引上げに伴うキャッシュレス決済の導入に対する支援策がある今を好機と捉え、商工団体とともにキャッシュレス決済の導入を強力に進めるべきではないか。	消費税率の引上げやポイント還元制度の開始を見据えて、県内の商業・サービス業におけるキャッシュレス決済の導入促進に向けたセミナーを今年7月に開催したほか、キャラバン隊派遣等を活用するなど、国と連携を図りながら、キャッシュレス決済・ポイント還元制度の普及啓発に取り組んでいる。 なお、商工団体や金融機関においても、キャッシュレス端末の展示会・商談会を開催するなど取組を進めている。	産業労働部

人・もの交流拡大部会への提案

No.	提案元部会	提案の概要	提案に関連する県の取組状況	関係部局
3	未来を拓く人づくり部会	男鹿のナマハゲを含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを絶好の機会と捉え、インバウンドの増加も念頭に置きながら、これまで以上に積極的な売り込みや、地域の観光振興の後押しをすべきではないか。	男鹿のナマハゲについては、本県の玄関口である秋田駅及び秋田空港でのお出迎えや日本最大の旅行博であるツーリズムEXPOジャパンに参加しているほか、訪日外国人が増加している台湾やタイで行うイベント等に出演するなど、本県のキラコンテンツとして国内外において広くPRを行っている。 また、今年5月に秋田市で開催した「これが秋田だ！食と芸能大祭典」では、ユネスコ無形文化遺産登録を記念し、20匹以上のナマハゲが練り歩きを行い、男鹿のナマハゲのアピールを行ったほか、10月に男鹿市において開催される「新・秋田の行事」では、男鹿のナマハゲをはじめ、本県を代表する伝統芸能や祭りが一堂に会し、本県の文化を大々的にPRすることとしている。	観光文化スポーツ部

健康長寿・地域共生社会部会への提案

No.	提案元部会	提案の概要	提案に関連する県の取組状況	関係部局
4	人・もの交流拡大部会	東京オリンピック・パラリンピックを契機として、県民が身近にスポーツを楽しむ機会が増えることが見込まれることから、生涯スポーツの実践として、健康食品や製薬会社等の民間企業のノウハウも取り入れながら、健康づくりのためのプログラムを作成するなど、健康づくりに関するスポーツの効用を県民に周知していくことが必要ではないか。	平成29年度に設置した「秋田県健康づくり県民運動推進協議会」は、自治体、経済・労働団体、保健医療団体のほか、生涯スポーツ関係団体を含む民間の非営利団体、健康食品関連会社や製薬会社を含む一般企業など、多種多様な団体で構成されている。 県では、この協議会を健康づくり県民運動の推進主体に位置付け、会員の主体的な取組を推進するとともに、会員相互の連絡調整や情報交換等を行っている。	健康福祉部

未来を拓く人づくり部会への提案

No.	提案元部会	提案の概要	提案に関連する県の取組状況	関係部局
5	ふるさと定着回帰部会	介護・福祉人材の不足に対応するため、専門課程を高校に設置することはできないか。	県では、国家資格である介護福祉士の取得を目指すことができる高校として、六郷高校福祉科、湯沢翔北高校専攻科介護福祉科の2校を設置しているほか、「介護職員初任者研修」修了を目指すコースを大館桂桜高校、能代西高校、増田高校、雄勝高校の4校に設置している。また、福祉に関する広い教養を修得するコースを有する高校を6校設置している。	教育庁

相互に関連する提案①

No.	提案元部会 ↓ 提案先部会	提案の概要	提案に関連する県の取組状況	関係部局
6	産業振興部会 ↓ 健康長寿・地域共生社会部会	多様な人材の活躍により人手不足の解消を図るため、障害者や高齢者等のサポートの更なる充実を図り、持っている能力を最大限に発揮できるような環境の整備に取り組むべきではないか。	<p>障害者については、障害者就業・生活支援センターや「就労定着支援事業」により、本人の意思と能力に十分配慮しながら、就業や就労継続のための生活支援を行っている。</p> <p>高齢者については、高齢となってもその能力を発揮し、就労やボランティア等を通じて地域で元気に活躍できるよう、市町村と連携して健康づくりや介護予防に取り組むとともに、高齢者団体の活動への支援等により、社会参加の促進を図っている。</p> <p>なお、介護分野においては、元気な中高年齢者を対象に、介護の仕事や職場への理解を深めるための入門的研修を実施し、高齢者の就労促進を図っている。</p>	健康福祉部
7	健康長寿・地域共生社会部会 ↓ 産業振興部会	企業等に対し、高齢者や障害者などが共に働く上での理解と配慮、雇用の分野における障害者に対する差別の解消を促し、全ての人が能力を発揮できる職場環境の整備等をより積極的に進めるべきでないか。	<p>70歳以上の高齢者が就業できる企業の割合は、本県が全国1位となっており、県内企業による高齢者の受入環境の整備が進む中、県では、高齢者への就業機会の提供等を行うシルバー人材センターの活動を支援しているほか、同センターの派遣就業について一定の業種・職種における就業時間の要件緩和を今年4月から実施するなど、高齢者の就業機会の拡大を図っている。</p> <p>また、障害者が県内で就職し、安定した就労が継続できるよう、秋田労働局と連携し、採用職域の拡大と求人票の提出について、経済団体への要請を実施している。</p>	産業労働部

相互に関連する提案②

No.	提案元部会 ↓ 提案先部会	提案の概要	提案に関連する県の取組状況	関係部局
8	ふるさと定着回帰部会 ↓ 未来を拓く人づくり部会	<p>キャリア教育を一步進めて、総合的な学習の時間や長期休業期間を利用し、地元企業や農業法人、森林組合、漁業組合、社会福祉施設等と在学中から関係性を持つことで地元就職を促進する取組を行うことはできないか。また、高校のカリキュラムに、起業・創業についての学習や、地域課題の解決など地域づくりのリーダーとなる人材の育成を取り入れることはできないか。</p>	<p>郷土愛や進路意識を高めていく取組の一つとして、県立高校では高校2年生までに全ての生徒がインターンシップ又はボランティアを行うこととしており、その体験先は地元企業はもとより農業法人、森林組合、社会福祉施設等も含め多岐に渡っている。</p> <p>起業等に関しては、商業科目を中心に起業家精神に係る学習活動を行っているほか、進学希望の生徒に対しても大学との連携事業を通じて起業家の講話を聞く機会を設けるなどしている。</p> <p>また、昨年度から進学希望者の多い高校3校に配置したキャリア探究アドバイザーが、インターンシップや地域の課題研究の支援に加え、地域企業や地域人材の発掘、地域資源の活用等に取り組んでおり、郷土愛の醸成とともに、大学卒業後の県内就職の促進を図っている。</p>	教育庁
9	ふるさと定着回帰部会 ↓ 農林水産部会	<p>県外の子どもたちの受入や、地元の高校生の夏季休業中の受入、インターンシップ等により農業法人・農家と学校等との連携を深め、将来的には就農・若者の定着回帰につながるような環境づくりを行うことはできないか。</p>	<p>交流人口の拡大に向け、中山間地域の特色を生かした都市との交流活動等を支援する「魅力ある秋田の里づくり総合支援事業」を関係団体へ周知し、小学生等の体験教育に係る取組を支援している。</p> <p>また、若者の就農定着に向け、県内農業高校と連携し、高校生に対するインターンシップや先進農家視察、若手農業者との交流等を実施している。特にインターンシップについては、昨年度から対象を6校に拡大し、より多くの高校生に農業現場での職業体験をしてもらえるよう努めている。</p>	農林水産部